

ジャガイモ新品种も紹介

長崎県テーマに築地で研修会

東京・築地市場の卸・仲

卸・小売で組織するルネッサンス築地野菜・くだもの推進委員会(泉末紀夫会長)

の研修会が市場内で開催さ

れた。毎月ひとつの県をク

ローズアップしており、今

回は長崎県。JA全農なが

さき東京事務所を担当者が

主要品目の生産動向や取組

み、新品种などを紹介した。

栽培品目はイチゴをはじめ

めびワ、ジャガイモなどの

ほか、近年はさまざまな品

目にも注力している。農業

算出額は2010年で13

99億円(01年比106%)

となり、全国計では減少し

続ける中、増加している数

少ない県でもある。

イチゴは作付面積の9割

が「さちのか」だが、新た

な品種も開発。この日は「恋

の香」も出品し、参加者は

両品種の味の違いを確認し

た。恋の香はさちのかより

も糖度が高く、大玉になり

やすい特性があるという。

ジャガイモは、大玉で揃

いの良い「ニシユタカ」な

どが栽培されているが、2

つの新品种を紹介。「さんじ

ゆう丸」はニシユタカに比

べて食味に優れ、でん粉価

が低い。さらにニシユタカ

並みに煮崩れしにくいのも

特長だ。5月から築地市場

にも入荷する予定。

一方、皮と果肉が赤色の

「ドラゴンレッド」(西海31

号)はでんぷん価がニシユ

タカやデジマより高く、ホ

クホクとした食感。活性酸

素を除去する働きがあると

いうアントシアニンを10

0g中100mg含む

ている。調理用・加工用に期待

されているが、「まだほとん

ど栽培されていない」とい

い、参加者に利用法のアイ

デアを求めた。

ミカンも主要品目のひと

つだが「愛媛や和歌山に比

べて出荷量が少ない」のが

ネック。そのため味にこだ

わること注力していると

いう。露地栽培では結果樹

面積の45%にマルチシート

を使用し、雨の影響を受け

ない栽培をしていることを

訴えた。

